

With you

特集

救命救急センターがさらにさらに進化・P.02
世界初！「2ルームCT」導入



Contents

- P.03 | 「病院機能評価」に認定されました
呼吸器腫瘍アレルギー内科を開設
- P.04・05 | 秋に開催する3つのイベント紹介
- P.06・07 | 新任部長・センター長ごあいさつ



2ルームCTで、検査と治療がスムーズに

救命救急センターに導入

当院救命救急センターでは、平成29年7月から、世界初の機構を持つ「2ルーム型CT」を導入し、救急初期治療に高い効果を発揮する「Hybrid Emergency Room（以下ER）」としての稼働を開始しました。ERは、X線により体内をリアルタイムに透視・撮影し「血管内治療を行うための「血管造影装置」と、検査のために体内部の精密な断層画像を撮影する「CT」の2つの機能を併せ持っています。この2つの機能を持った装置のことは「IVR・CT」と呼ばれています。



検査から治療まで1部屋で

これまで、救命救急センターに運ばれた救急治療が必要な患者さんであっても、CT検査からカテーテル治療、手術と、それぞれの装置がある部屋に移動する必要がありました。各部屋間の移動には時間が掛かり、重傷の患者さんの場合、ときに命の危険を伴うものでした。その問題を解決するのが「IVR・CT」です。「IVR・CT」を活用することで、患者さんが動くことなく1つの部屋でCTの撮影から検査、治療と全てを完結することができるようになり、治療時間を短縮し、救命できる可能性を大きく上げることが出来ます。

役割に応じて装置が動く、世界初の機構

一般的な「IVR・CT」の場合、CTを使用しないときには、CT装置を部屋の隅に移動させ待機させておくことしかできず、空間、機械、人的資源の大きな無駄が発生していました。今回当センターが稼働を開始したERには、当院と東芝メディカルシステムズ株式会社が共同で開発した、2つの部屋をCT装置が行き来する世界初の機構を装えた「標準CT組合せ型IVR・CT」と呼ばれる装置を設置。CT装置を別室へ移動させることができるようになり、「IVR・CT」としてだけでなく、検査を行うCT装置単体としても稼働させることが可能となります。患者さんの治療中に、別の患者さんの検査ができるため、より多くの患者さんを受け入れることができます。高度な医療資源をより多くの患者さんに。これからも地域の皆さんのために発展し続ける「救命救急センター」にぜひご期待ください。

日本医療機能評価機構認定病院

に認定されました

大切な人を受診させたい病院へ

当院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG:Ver1.1）の審査を受け、認定基準を充足していることが認められ、平成29年7月7日付で認定されました。今後も「大切な人を受診させたい病院へ」をモットーに、大阪府北河内医療圏の中核病院の一つとして地域医療に貢献していくとともに、医療の質の向上に取り組んでまいります。



病院機能評価とは？

病院機能評価は、医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関として設立された公益財団法人日本医療機能評価機構が、病院の機能・安全管理体制・療養環境等について、中立的、科学的・専門的な見地から審査を行い、機構の定める認定基準に達しているかを評価するものです。

評価対象領域

- 1 領域 「患者中心の医療の推進」
- 2 領域 「良質な医療の実践1」
- 3 領域 「良質な医療の実践2」
- 4 領域 「理念達成に向けた組織運営」

Introduction

呼吸器腫瘍アレルギー内科を開設

本年9月1日付けで、呼吸器腫瘍アレルギー内科科長を拝命しました。伝統ある関西医科大学にご推挙いただきました関係の方々には厚く御礼申し上げます。責任の重大さを痛感しております。私は富山県黒部市の自然豊かな地に生まれ育ちました。鳥取大学医学部を卒業後、金沢大学で血液内科と呼吸器内科を主に担当する第三内科の大学院に入学し、呼吸器疾患の臨床について深くたずさわる機会をいただきました。大学での研究テーマは「気道における好酸球の体内役割」であり、アレルギー疾患における好酸球が常に悪玉として機能するわけではなく条件によっては生体保護的に作用することを基礎的に解明してきました。その後、市中病院においてもアレルギー性気道疾患を含む難治性の咳嗽や難治性気管支喘息に対する治療を中心として臨床研究を行ってまいりました。先の東北の震災では医療支援にも参加し、亜急性期の避難所ではアレルギー性疾患や呼吸器疾患への対応が重要であることも明らかになっています。アレルギー疾患の有病率は気管支喘息が5〜10%、スギ花粉症が30%で、多くの人々が自分もしくは近い親族にアレルギー疾患を抱えている現状であり、まさに

- 1989年3月 鳥取大学医学部卒業
- 1997年3月 金沢大学大学院医学系研究科内科学第三修了
- 1997年4月 金沢大学医学部内科学第三助手
- 1999年4月 富山赤十字病院呼吸器内科副部長
- 2002年4月 富山市民病院呼吸器内科医長
- 2005年4月 同 呼吸器内科医長兼腫瘍内科部長
- 2014年4月 同 呼吸器内科部長兼腫瘍内科部長
- 2017年4月 同 救急診療部主任部長兼呼吸器内科部長兼腫瘍内科部長
- 2017年9月 関西医科大学総合医療センター呼吸器腫瘍アレルギー内科科長



教授
石浦 嘉久
Yoshihisa Ishiura

国民病とも言えます。2016年4月にはアレルギー性疾患対策基本法が公布され国を挙げたアレルギー対策が期待されていますが、アレルギー学会の専門医は約3500名しかおらず数多くの方々には適切な効果のよい診療を提供するためにはプライマリケアの先生方との連携が不可欠な状況です。患者さんと喜びが分かち合える時間が少しでも長くなるようスタッフ一同日々努力して参る所存ですのでご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Q&A / 救急医学科部長 中森靖教授に聞きました

高機能な設備を活用しより多くの患者さんを救います

Q1 なぜ世界初の「2ルーム型CT」を開発されたのですか？

A 今までの病院にも設置されていたHybrid ERは、治療中の患者さん一人にしか使うことができず、施設に余裕のある大きな病院しか設置することができませんでした。今回開発した「2ルーム型CT」は、普段はCT室、血管造影室とそれぞれ独立した部屋として稼働させ、必要な2部屋をドッキングさせ高性能なHybrid ERとして使うというのがコンセプトです。こうすることで、それぞれの設備を無駄なく活用することができるよう、当院だけでなく、より多くの病院が導入できるようになります。

Q2 Hybrid Emergency Roomが稼働したことでメリットはなんですか？

A 一人の患者さんの血管造影治療中に、隣の部屋で別の患者さんのCT撮影ができるようになったため、より多くの患者さんの受け入れができるようになりました。これは当初のコンセプト通りです。それ以外に今回稼働してみても分かったことは、CT装置を自在に動かすことができるため、必要の

ないときにCT装置を隣の部屋に動かして、患者さんの治療や手術を行うスペースが確保しやすくなったということです。広いスペースを確保できると、治療や手術が今まで以上に迅速かつ正確に行えるようになりました。

Q3 最後に、患者さんに向けたメッセージをお願いします

A 当院では、年間約2,000件の救急患者さんの受け入れを行っています。今回Hybrid ERが稼働したことで、より多くの患者さんの受け入れができるようになっただけでなく、今まで救命が難しかった患者さんの救命できる確率が明らかに高くなり、救命救急センタースタッフの士気も高まっています。これからも地域のみなさんに安心を提供できるよう、スタッフ一丸で努力して参ります。



教授
中森 靖
Yasushi Nakamori

EVENT INFORMATION

10/1 日 TAKE!ABI 2017 in KANSAI

時 間	10時～16時
場 所	血管年齢測定:本館正面玄関 講演:南館2階臨床講堂
講 演	市民公開講座(12時～13時) ●「足の病気が命を守る? 動脈硬化早期発見の重要性」 (血管外科教授 駒井宏好) ●「知って得!元気な血管を保つ運動の秘訣」 (健康運動管理士 久保田 真由美・東野 亮太)

おなかの動脈瘤、足の動脈硬化症(閉塞性動脈硬化症)、静脈瘤は血管外科にご相談ください。できるだけに楽に治す方法を考えますが、必要な場合は徹底的に手術で治します。

―当院実績―
動脈手術症例:1405/160例/年
静脈瘤手術症例:1005/120例/年

全身の健康は足から始まる!

「動脈硬化を抑え」元気で長生き」する秘訣

足に注目

動脈硬化は知らない間に身体をむしばみます。早期に発見し、早期から進行を抑えるにはもっと足に注目しましょう!「老化現象かな?」と思える症状も要注意です。自分で歩けることが全身の健康にも非常に大事なのです。

足は動脈硬化の窓

歩くで決まって同じ距離、同じ時間でふくらはぎが張ってくる「でも休憩するとまた歩けるようになる」このような症状はありませんか?多くは「老化現象」「運動不足」ですが、中には足の動脈硬化で血管が詰まってきている場合があります。症状のある方は一度足の血流検査を受けてみましょう。ひどい場合は足先から腐ってきて切断しなければならぬような病気が潜んでいるかもしれませぬよ。「足は動脈硬化の窓」なのです!

全身の健康を守るためにも

動脈硬化を防ぐことは現代の医学ではできません!でも進行を遅らせることはできます。大事なものは薬をのむことではありません。禁煙、生活習慣の改善、食生活の改善とともに運動することがとても大切です。一回30分程度の散歩を週3回は行うこと、これを続けていけば「元気で長生き」につながります。足が悪ければ運動もできませんよね。全身の健康を守るためにも足の病気を見逃さないようにしましなう。



EVENT INFORMATION

10/15 日 日曜乳がん検診・講演会
～ジャパン・マンモグラフィー・サンデー～

時 間	検診 9時～12時 講演 12時～13時
場 所	2階 乳腺外来
検 診	日曜乳がん検診(マンモグラフィー・エコー) ※有料 マンモグラフィー検診 ¥9,000 マンモグラフィー+エコー検診 ¥13,000
無料講演会	12時～12時30分 乳がん検診のすすめ(乳腺外科教授 山本大悟) 12時30分～13時 リンパ浮腫について (乳がん認定看護師・医療リハビリナースセラピスト 西村和美)
予約方法	検診:予約受付 (0570-022-455)にて申込。 講演会:当院HPもしくは 右記QRコードにて申込。



乳がん検診をご希望の方は乳腺外科へ

―当院実績―
2016年 乳がん手術233件
(うち152件で乳房再建)

乳がんのこと、知ってますか?

「手軽に出来る自己検診をご紹介」

乳がんとは?

乳がんは40歳台で発見されるケースが最も多いのですが、近年では70代、80代の女性も増え、また、20代、30代の若い世代にまで広がっています。20代だからといって油断はできず、若いうちから関心を持つ事が大切です。

乳がんになりやすい人の特徴

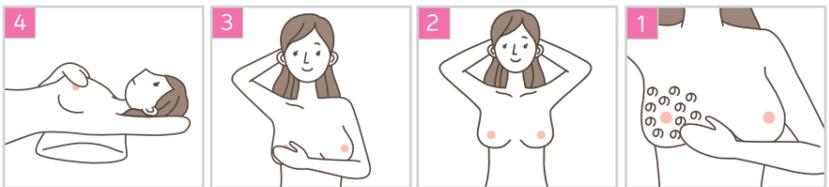
乳がんになりやすい人の特徴は、初潮年齢が早い、出産経験がない、閉経が遅い、飲酒量が多い、乳がんの家族がいるなどの人は他の人より気をつけた方が良いでしょう。

自己検診をしてみる

自己検診としてはさまざまですが、日にちをきめ、手のひらをつかって丁寧にみていきましょう。

- ① 4本の指で「の」の字をかくように触る。
- ② 頭の後ろで手を組み胸の筋肉を緊張させて変化を調べる。
- ③ 乳頭から、分泌物が出ないか調べる。
- ④ 仰向けに寝て触ってみる。

乳がん検診としてはマンモグラフィーに加え、最近では超音波検査も併用したほうがよいことがわかってきました。年に1回は受けるようにしましょう。



EVENT INFORMATION

11/4 土 世界糖尿病デーフェスタ

時 間	13時～16時
場 所	南館3階大会議室
催 事	HbA1c・血糖・血圧・体重・体脂肪測定などフットケア、運動実演(腰掛タップダンス®予定)川柳コンテスト、医師相談コーナー、クイズ大会、フードモデル展示、インスリン・服薬管理コーナー
講 演	糖尿病と認知症 (関西医大付属病院 糖尿病科 田代香織)
参加費	無料 申込不要

血糖値が高いと言われたら、かかりつけ医を受診しましょう。糖尿病教育入院 糖尿病合併症精査は当センター「内分泌代謝内科」にご相談ください。

―当院実績―
2016年度
糖尿病外来患者数:2121人
糖尿病透析予防外来
(DM健康管理外来):1124人

今日からできる糖尿病予防

「食事のコツと運動のすすめ」

糖尿病について

糖尿病の初期はほとんど症状がありません。健診などで「血糖値が高い」と指摘されても、放置していませんか?症状がないからと言って高血糖を放置すると、失明や腎不全、心筋梗塞、脳梗塞、足壊疽などの合併症が出てくるかもしれません。そうなる前に食生活と運動習慣を見直し、糖尿病を予防しましょう。

予防のポイント!

3食きちんと食べて バランス良い食事を心がけましょう

①食べ過ぎないで腹八分目、②エネルギーのもととなる炭水化物(ごはん、パン、めん類、果物など)や脂質(油、ベーコン、バターなど)、体のもととなるたんぱく質(肉、魚、卵、大豆など)、体の調子を整える食物繊維(野菜、きのこ、海藻など)をかたよらないようバランスよく食べることが大事です。野菜、たんぱく質、炭水化物の順にゆっくりよくかんで食べると、食べ過ぎを防ぎ、食後の血糖上昇をおだやかにします。甘いものなど間食を控え、お酒はほどほどに。

普段から体を動かすことを心がけましょう

運動には血糖を下げる働きがあります。体脂肪を燃やし、体重減量効果が期待できる有酸素運動(歩行、ジョギング、自転車など)と筋肉をふやすレジスタンス運動(筋肉トレーニング)を組み合わせ、1回1時間を週3回程度行うことがおすすめです。「そんな時間ないよ」というあなた、日常生活で少し工夫するだけでも効果があります。通勤時は1駅分歩く、職場や駅ではなるべく階段を使うなど、日常生活で体を動かす機会を作るようにしましょう。

新任部長・センター長「あいさつ

平成29年4月1日付けで新任した部長・センター長からの「あいさつ」と、新任後の意気込み等をご紹介します。

消化器肝臓内科

平成29年4月1日付けで消化器肝臓内科部長を拝命いたしました。当科では、早期に発見されれば手術を回避できる、食道・胃・大腸がんの内視鏡治療に積極的に取り組んでいます。さらに、胃・肝臓がんの予防を目指して、ピロリ菌陽性胃炎に対する除菌治療や、B型・C型肝炎ウイルス感染に対する経口抗ウイルス薬治療を行っています。また、逆流性食道炎や過敏腸症候群などの機能性消化管障害、潰瘍性大腸炎やクローン病を含む炎症性腸疾患、過食・肥満に関連した非アルコール性肝疾患などに対しても最新の薬物療法と、個々人に適した生活指導を行っています。今後も、他の診療科と提携しながら最良の医療を提供していきたいと考えております。



教授
西尾 彰功
Akiyoshi Nishio

整形外科

平成29年4月1日より整形外科部長を拝命いたしました。私は、附属病院時代より30年以上に渡り滝井の地にて勤務して参りました。股関節外来の担当も30年となります。この間に多くの患者さんより、多くのことを学ばせていただきました。股関節を中心に人工関節の手術は4000例を、骨切り手術は500例を超えました。患者さんが長い間の痛みから解放放たれて、関節を意識しなくて済む生活に戻られることを切に希望して診療しております。どんな困難な方も断らない整形外科、頼れる整形外科を目指して股関節・脊椎・リウマチのスタッフ一同研鑽して参ります。今後も来院される患者の方々に、高度な医療をより安全に提供できるように努力していきたいと考えています。



教授
徳永 裕彦
Hirohiko Tokunaga

臨床検査医学科

平成29年4月より臨床検査医学科および臨床検査部部長を拝命いたしました吉賀正亨です。検査医学と臨床高血圧を専門にしております。臨床検査医学科では、直接患者さんの診察は行っておりませんが、臨床検査部とともに検査部の運営や臨床各科からの問い合わせや要望の対応に、医師として積極的に参加していきたいと考えております。また、臨床検査部長として、「常に患者さんの立場に立ち、検査結果を迅速かつ正確に報告すること」を理念とし、その日の検査値を見て診療を行える診察前至急検査を重視した、各診療科から信頼される検査部作りと、患者さんの検体検査や生理機能検査などの円滑な検査部運営に取り組んで参ります。



講師
吉賀 正亨
Masamichi Yoshika

病理診断科

平成29年4月1日付けで病理診断科・病理部部長を拝命しました。「病理」ってご存知ですか？私も病理部では患者さんの生検や手術組織、細胞検体から病理標本を作製し顕微鏡で観察して病理診断を行っており、また手術中に凍結標本を作製して診断する術中迅速診断では術式決定に寄与しています。近年、治療法選択の多様化とも相まって病理診断の重要性や需要が増しています。我々病理部スタッフ一同は臨床各科との十分な連携を保ちながら、最新の分子標的診断にも対応できるように新しい技術の導入を図って、病理標本の向こうの患者さんに最良の医療が提供できますよう精進していく所存です。宜しく願います。



教授
植村 芳子
Yoshiko Uemura

健康科学センター

この度健康科学センター長の任を仰せつかりました循環器内科の朴幸男です。運動は、心臓病の再発予防や生活習慣病などに非常に有効です。しかし運動方法の間違えると、逆効果になります。私はもとも冠動脈インターベンションを専門としていますが、血行再建、薬物治療とともに運動療法は再発予防、生活習慣病の管理などに非常に有用です。虚血性心疾患、下肢閉塞性動脈硬化症などの患者さんを対象に、個々にあった運動の処方箋（運動プログラム）を発行するために、心肺運動負荷試験（CPX）を行い、科学的根拠を持つ運動指導を行っております。また、当施設の利用に関しては当院を受診されている方はもちろん、地域のかかりつけ医に受診されている方も来室可能です。運動、地域連携を重要視しております。運動を通して、患者さんの健康増進に貢献できよう努めて行く所存です。



講師
朴 幸男
Haengnam Park

透析センター

平成29年4月1日付で透析センター長を拝命しました。私は、腎臓内科を専門とし、慢性腎臓病の治療と血液浄化に携わってきました。血液浄化には、透析だけでなく、血漿交換や血漿吸着なども含まれます。当院は、急性期病院としての責務を果たしながら、特殊な疾患に対する血液浄化も行っています。また透析治療では、血液透析（HD）、腹膜透析（PD）も行っており、PDに関しては近隣の維持透析施設、訪問看護ステーション、介護支援施設とで京阪PDネットワークという組織を設立しており、各所と連携しながら治療を行っています。HD、PDどちらも治療の差異なく選択していただけるので、患者さんの生活に寄り添った治療を行っています。私たちは地域の透析患者さんの急性期から慢性期までいつでも「真に頼りになる透析センター」を目指したいと思っております。皆様よろしくお願い致します。



講師
菊池 早苗
Sanae Kikuchi

アレルギーセンターについて

アレルギー疾患は世界的に重症化が進んでいます。アレルギー疾患は診療科を超えて病態が存在することが少なくなく、従来の枠組みの中での診療では治療が困難な場合もあります。当センターでは診療科の枠組みを超えて、横断的にアレルギー疾患の治療に取り組む、総合アレルギー診療を提供いたします。

特色・方針

アレルギー疾患は多領域にオーバーラップしており、単科の診療で解決しない場合も少なくありません。アレルギーセンターでは領域を跨いで存在するアレルギー疾患を取り扱う窓口として機能します。アレルギー専門医が診察し、必要に応じて適切な診療科と連携します。また関西医科大学附属病院のアレルギーセンターとも連携し、高度な医療や最新の検査にも対応いたします。現在は指定難病である好酸球性副鼻腔炎を積極的に取り扱っており、アスピリン喘息に代表される成人発症型喘息を合併し、嗅覚障害を伴う新型副鼻腔炎治療において全国的な治療実績を誇っています。卓越した手術技術と包括的気道炎症制御を行うことで再発率を全国平均の約半分程度（※喘息合併重症好酸球性副鼻腔炎治療成績において）に抑えています。

センター長のごあいさつ

センター長の耳鼻咽喉科朝子です。アレルギー専門医指導医としてこれまで多くのアレルギー患者さんの診療に携わってきました。特に気道アレルギーを専門として、上下気道の治療を包括的に治療行っています。通常のお薬による治療以外にも手術治療、免疫療法、抗体薬治療を積極的に行い、重症アレルギー疾患の治療にあたってまいりました。これまでなかなか治療効果が満足を得られなくお困りの患者さんのお役に立てるような医療をご提供いたします。また太いネットワークを通じて急な転地や異動に際して全国の医療機関へのご紹介も承りたいと考えています。アレルギー疾患は全身に症状が出るのが珍しくなく、どの科を窓口にして良いか迷うことも多くあります。アレルギーセンターはそういった患者さんの窓口の役割も果たします。診療科に迷う際にもご相談ください。



教授
朝子 幹也
Mikiya Asako

関西医大総合医療センター便利帳のご紹介

病気の概要・治療方法などを解説する「病気の辞典」や、市民健康講座の動画公開など、健康に役立つ様々な情報や動画を公開しています。



診療科の“イチオシ”

各診療科が重点を置いている疾患・手術・検査などの紹介と、実績を掲載しています。

病気の辞典

「病気の概要」「症状」「検査」「治療方法」「総合医療センターで行う治療」などを解説しています。

受診の方法

当院の初診・再診の流れを、動画で紹介しています。

アクセス(お車の方へ)

お車でのご送迎や駐車場へのルート案内を、動画で紹介しています。

講演動画

当院が実施した市民健康講座や、各種イベントなどの動画を公開しています。

健康のノウハウ動画

各種体操やストレッチなど、健康に役立つ動画を公開する予定です。



ナンプレとは数字を配置するという意味の「ナンバープレース」です。9×9の四角形のマス目(合計81マス)にヒントを手がかりにして、1～9の数字をルールに従って書き込んでいくパズルです。

- 1 タテのどの列にも1～9の数字が1つつはいるようにしてください。
- 2 ヨコのどの列にも1～9の数字が1つつはいるようにしてください。
- 3 太い線で囲まれたエリア(タテ×3ヨコ3の四角形)にも1～9の数字がはいるようにしてください。

※解答は当院ホームページに掲載しています。

※Copyright(C)2015 TORU TAKEUCHI

	9			6		2		5
	6	3	8					
5			3					
2					9			
				5		7		
9		1					2	8
7		8	2					
	4						7	
		6				1	5	

■ 病院理念 慈仁(めぐみ)を心の鏡とした患者さん本位の病院

■ 基本方針

- 1 地域における基幹病院として、急性期医療に取り組みます。
- 2 患者さんの権利を尊重し、安全かつ根拠に基づいた高度な医療を提供します。
- 3 断らない救急医療を実践し、かつ災害拠点病院として地域医療に貢献します。
- 4 リエゾン医療、チーム医療を推進し、心の通った医療を提供します。
- 5 地域の行政・医療機関との連携を図り、住民の保健・福祉の向上に努めます。
- 6 医の倫理を基調とし、有能かつ心ある医療人を育成します。
- 7 日々の診療に根ざした研究を行い、臨床医学に貢献します。

■ 患者さんの権利

- 1 人格的に尊重され、思いやりのある丁寧な医療を受ける権利
- 2 プライバシーが尊重される権利
- 3 安全に配慮した医療を受ける権利
- 4 医師・医療者から十分な説明を得る権利、そして自分の選択に基づく医療を受ける権利
- 5 医療に関する疑問点や不満を尋ねたり相談する権利
- 6 医療等の記録を閲覧する権利、また他の医療機関の医師の意見を聞く権利
- 7 快適性に配慮した環境で医療を受ける権利
- 8 医療費明細の報告、及び医療費と福祉の公的援助に関する情報を受ける権利